

Unit 4 I like blue.
すきなものをつたえよう

単元目標 (4時間)

- ・多様な考え方があることや、外来語を通して英語の音声やリズムなど日本語との違いに気付き、色の言い方や、好きかどうかを尋ねたり答えたりする語や表現に慣れ親しむ。(知識・技能)
- ・自分の好みを伝え合う。(思考力・判断力・表現力等)
- ・相手に伝わるように工夫しながら自分の好みを紹介しようとする。(学びに向かう力・人間性等)

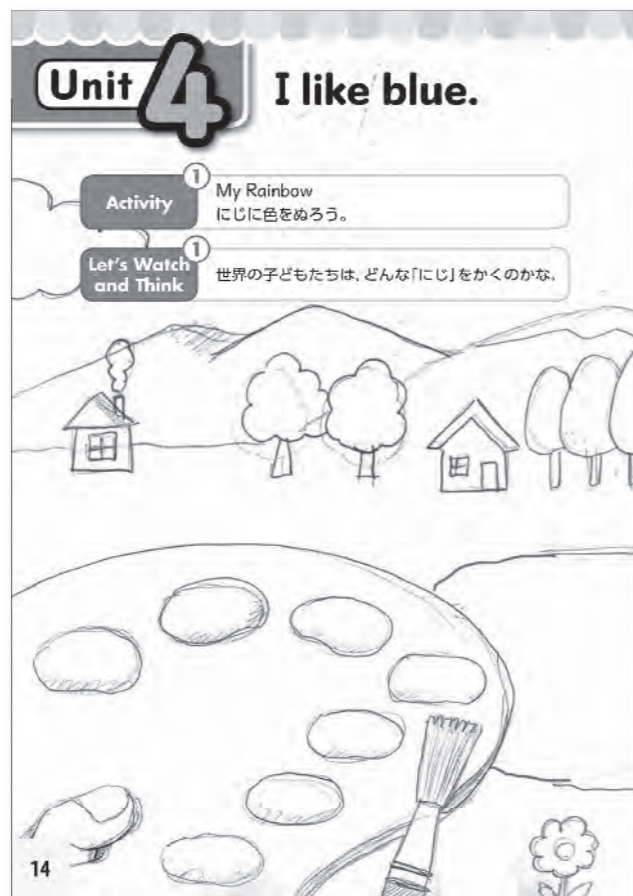
言語材料

- I like (blue). Do you like (blue)? Yes, I do. / No, I don't. I don't like (blue). Hello. I'm (name). Goodbye. See you.
- like, do, yes, no, don't, 色 (red, blue, green, yellow, pink, black, white, orange, purple, brown), スポーツ (soccer, tennis, baseball, basketball, dodgeball, swimming), 飲食物 (ice cream, pudding, milk, orange juice), 野菜 (onion, green pepper, cucumber, carrot), who, touch

Activity 1

にじに色をぬろう。: 誌面の虹を自由に塗り、自分の虹を完成させる。

- ★ What's this? クイズ(虹の写真を封筒に隠すなどしてヒントを出す)をしたり、誌面を指してWhat's this? などと尋ねたりして、虹という児童のつぶやきを拾い、「rainbow」という言葉に出合わせるとよい。
- ★ 塗った色や順などを尋ねながら、一人一人の捉え方が違うことなどに気付かせるようにする。



スクリプト

Let's Watch and Think 1

Hello. I'm (). I'm from America.
(作品作成途中) Red. Blue.....
(最後に色を言ってから) This is my rainbow.と紹介する。

QR

Let's Chant : I like blue.

(色編) "I like blue."
Blue, blue, I like blue.
Pink, pink, I like pink.
Red, red, I like red.
Wow! Beautiful! (きれいな花束ができる)

(スポーツ編) "I like soccer."
I like soccer. I like dodgeball.
But I don't like baseball.
I like tennis. I like basketball.
But I don't like swimming.

QR



(質問編) "Do you like soccer?"
Do you like soccer? Yes, I do.
Do you like baseball? Yes, I do.
Do you like swimming?
No, I don't. I don't like swimming.

Let's Sing : The Rainbow Song

Red and yellow and pink and green,
Purple and orange and blue,
I can sing a rainbow,
Sing a rainbow,
Sing a rainbow too.

QR

Let's Watch and Think 1

世界の子どもたちはどんな「にじ」をかくのかな。: 映像資料を視聴し、世界の子どもたちの描く虹を見て、それぞれの違いに気付く。

- ★ 同年代の外国の子供たちが虹を描く様子を視聴させ、自分たちの作品と比べながら相違点や共通点に気付かせるようにする。同じ虹を見てもその捉え方は多様であることや、違いを認め合うことの大切さなどについて、児童が体験的に気付く機会としたい。また、これは、あくまでも個人の差異であることを押さえ、「○○という国では、○色で虹を描く」と言ったステレオタイプの理解とならないよう十分配慮する。
- ★ これまでに世界の様々な挨拶やジェスチャー、数の数え方などについて体験を通して理解を深めてきている。本活動を通して、さらに他の国や地域への関心を高めるようにしたい。

Let's Chant : I like blue.

- ★ 慣れてきたら、色やスポーツなどを児童に選ばせた別のものに替えるなどするとより意欲が高まるであろう。

Let's Sing : The Rainbow Song

- ★ 色の言い方を学んだ後の第2時に扱うようにしているが、児童の実態に合わせて第1時の導入部分で扱うことも考えられる。
- ★ まず音だけ聞かせ、「どんな色が聞こえたか」尋ねるなどして、児童が主体的に活動できるよう工夫する。
- ★ 音声に慣れ親しませることがねらいである。好きな箇所や歌える部分だけ歌うことで十分である。虹を描く活動中に流すなどして曲に親しませる工夫もできる。

Let's Listen 1

だれがなにを好きか線でむすぼう。: 音声を聞いて、それぞれの人物が好きな色を選んで線で結ぶ。

- ★ 児童が主体的に聞こうとするよう、動機付けを図る必要がある。I like red. Do you like red? Yes? / No? などと児童に好きな色について尋ねたり、誌面の人物の好きな色を予想させたりして、活動への意欲を高めておくことよ。
- ★ 全て理解できることを求めて児童に過度な負担を与えないようにする。一つでも「英語を聞いて分かった」という成功体験を味わわせることがポイントである。

Let's Listen 2

好ききらいを聞いて番号を書こう。: 音声を聞いて、登場人物の好きなスポーツとそうでないスポーツの番号を書く。

- ★ 誌面にあるスポーツについて、I like soccer. Do you like soccer? Yes? / No? などと指導者が児童に好みを聞いたり、登場人物の好みを予想したりして、活動への意欲を高めてから活動を行うようにする。
- ★ スポーツ名は、児童は外来語として聞き慣れているものも多い。この活動では、外来語と英語との音声の違いについて気付かせることもねらいとしている。

Let's Listen 3

好きなものを○でかこもう。: 会話を聞いて、登場人物の好きなものを○で囲む。

- ★ 活動に入る前に、絵カードなどを使ってDo you like ~? と児童に尋ねYes? / No? などと答えを引き出し、Do you like ~? の表現の意味を理解させるようにする。その際、児童の答えに指導者自身もMe, too. などと反応を返すようにしたい。
- ★ 登場人物の好みを予想させておくことで、「答えを確かめたい」という目的意識とともに「聞く必然性」も生まれる。児童



スクリプト

Let's Listen 1

1. Hello! I'm (Yuta). I like yellow.
2. Hi! I'm (Emma). I like pink.
3. Hello! My name is (Leon). I like red.

QR

Let's Listen 2

1. Hi, I'm (Taro). I don't like baseball. But I like soccer.
2. Hello. My name is (Mary). I don't like swimming. But I like basketball.
3. Hello! I'm (Hitomi).
I don't like dodgeball. But I like tennis.

QR

Let's Listen 3

- A・B: Do you like ~?
A・B: Yes I do. / No, I don't.
Aが好きなもの(プリン, ミルク, 野球, サッカー, 黄色, 青)
Bが好きなもの(アイスクリーム, ミルク, 玉ねぎ,



水泳, 赤, ピンク)

QR

Let's Watch and Think 2

- 1: Hello! My name is Emily, yellow, blue, pink. (誌面□内食べ物, スポーツについて同様)
Please guess. I like green? (誌面□内すべての語について同様)
Yes, I do. (イラストが○で囲まれるもの: strawberries, swimming, green, pink)
No, I don't. (イラストが△で囲まれる物: green peppers, soccer, baseball, yellow, blue)
- 2: Hello! My name is Bob. (後, 1と同様)
Yes, I do. (イラストが○で囲まれるもの: バスケボール, キュウリ, プリン, オレンジジュース, 赤, 青)
No, I don't. (イラストが△で囲まれるもの: ドッジボール, にんじん, 黒, 白, 水泳)

QR

Activity 2

My name is Paul. I like yellow and pink. I like strawberries. But I don't like tomatoes. Thank you.

の実態に合わせて「聞こう」という意欲が高まる手立てを工夫したい。

Let's Watch and Think 2

好きなものに○, きらいなものに△をつけよう。: 登場人物が好きかどうかを予想してDo you like ~? と尋ね、好きなものには○をそうでないものに△を付ける。

- ★ 指導者は、児童に誌面にある色などについて、I like blue. Do you like blue? Yes? No? と問いかけ、この活動への興味・関心を高めたい。デジタル教材を活用し、Do you like ~? という表現に慣れ親しませる。登場人物の好みについて尋ね、その答えが知りたいという目的意識が、答えを聞く必然性を生む。

Let's Play

友だちの好きなものをよそうして、好きなら○, きらいなら△を書いて、インタビューしよう。: 表にあるものについて友達の好みを予想し、インタビューをして答えを確かめ、その結果を表に書く。

- ★ 普段の様子から友達の好みをしっかり予想させ、尋ねたいという気持ちを高めることがポイント。活動後には、インタビューして分かった友達の意外な一面などを発表させることで相互理解が深まる。

Activity 2

好きなものを言ってじこしょうかいしよう。: 好きなものを言って自己紹介する。

- ★ 指導者がモデルを示し、自己紹介の仕方を理解させる。指導者は、ワークシートを順に指しながらゆっくり自己紹介をする。
- ★ 活動後には、自己紹介を通して気付いた友達の意外な一面などについて発表させる。一緒に生活していても知らないことが多いことに気付かせ、もっと互いのことを知りたいという気持ちを高めたい。

Unit 8 This is my favorite place.
お気に入りの場所をしょうかいしよう

単元目標（4時間）

- ・世界と日本の学校生活の共通点や相違点を通して、多様な考え方があることに気付くとともに、教科名や教室名の使い方に慣れ親しむ。(知識・技能)
- ・自分が気に入っている校内の場所に案内したり、その場所について自分の考えを伝え合ったりする。(思考力・判断力・表現力等)
- ・相手に配慮しながら、自分が気に入っている場所について、自分の考えも含めて伝えようとする。(学びに向かう力・人間性)

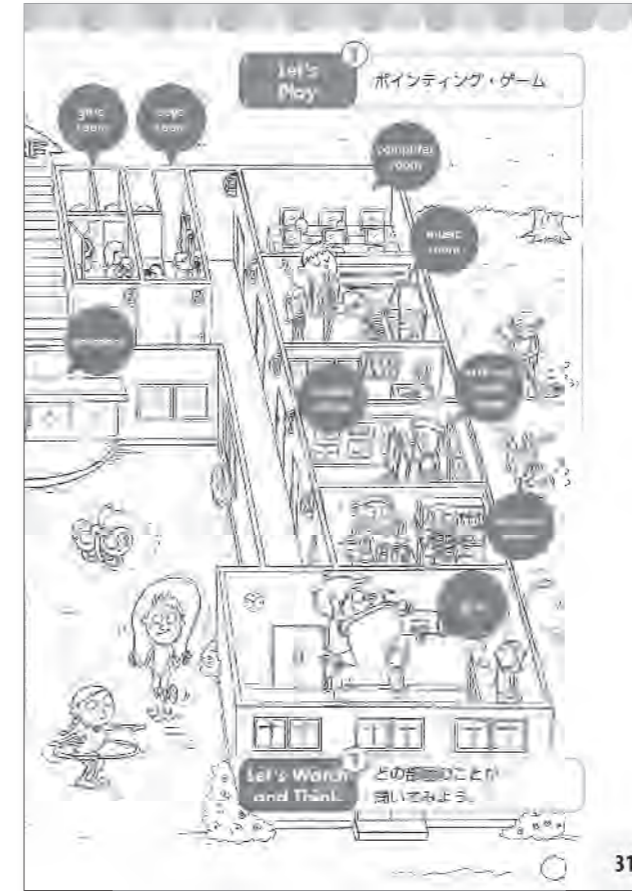
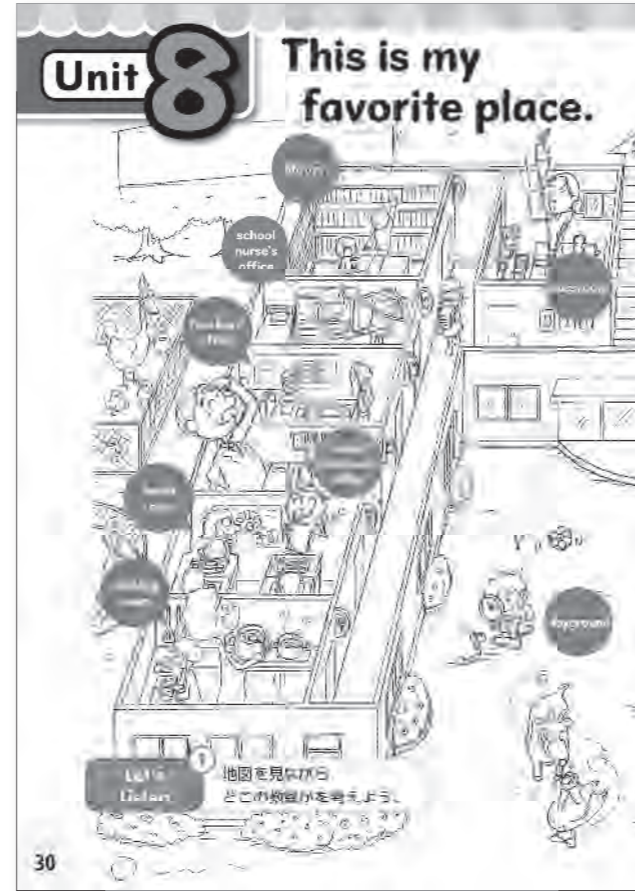
言語材料

- This is my favorite place. Why? I like (music). Go straight. Turn right/left. Stop. This is the (music room).
- favorite, place, my, our, why, school, science, music, cooking, arts and crafts, gym, playground, school nurse's / principal's office, entrance, library, teachers' office, school office, classroom, computer room, girls' room, boys' room, straight, left, right

Let's Play 1

ポインティング・ゲーム：指導者が言う教室名を聞いて、紙面にある教室を指さす。

- ★ 本活動をする前に、「教室クイズ」などを通して、教室の言い方を知る活動をする。よい。「教室クイズ」とは、指導者が校内の実際の様々な教室の写真などを見せてそれがどの教室かを尋ね、児童が推測して答える活動である。児童の答えに応じて、指導者は各教室の英語での言い方を聞かせる。
- ★ 「教室クイズ」で出合った教室名に慣れ親しむために、本活動を行う。まず、誌面



スクリプト

Let's Chant : School Chant



This is our classroom.
This is our science room.
This is our music room.
Come in, come in, let's have fun.

This is our playground.
This is our lunchroom.
This is our gym.
Come in, come in, let's have fun.

Let's Listen 1



(1) This is my school. Let's go inside. Look. This is my classroom. This is the school nurse's office. This is the teachers' office. This is the school principal's office. And then this is my favorite room. (I like lunch time very much.) → (lunch room)

(2) You are at the entrance. Turn right and go straight. Turn right at the music room, and go straight. Then next to the school office is my favorite room. (I like painting.) → (arts and crafts room)
(3) We are at science room. Go straight, go straight, and turn left at the music room. Go straight, go straight, and turn right at my classroom. And then you can find my favorite room soon. (I like reading books very much.) → (library)

Let's Watch and Think 1

(1) My favorite place is the gym. Now let's go to the gym. We are at the computer room. Look. This is the music room. This is the music room. This is the school office. This is the arts and crafts room. This is the science room. Then the next is my favorite room, gym. I like jumping rope.

(p.33へ続く)

にある校内の教室を指導者は児童とともに確認する。指導者は、デジタル教材に映し出された校内地図の教室を指さしながら、This is a ~?と、児童に続きを言わせるようにして確認していくとよい。その際に、意図的に何度も教室名を繰り返して言い、児童に聞き慣れさせるようにする。

- ★ 校内地図の教室の確認が終わったら、児童はペアになり、指導者が言う教室名を繰り返して言う。ただし、あらかじめ決めたキー・ワードが発音されたら、繰り返して言わずに、二人の間においてある消しゴムを取る。早く取った方が勝ちとなる。

Let's Listen 1

地図を見ながらどこの教室か考えよう。：教室名の言い方に慣れ親しんだ後、音声で道案内を聞いてどの教室かを考えて発表する。

- ★ ポインティング・ゲームやキー・ワード・ゲームなどで教室名の言い方に慣れ親しみ、Let's Watch and Think 1で道案内の仕方に出会ってから取り組むとよい。
- ★ 音声で道案内を聞き、到着した教室名を発表する。この活動が、単元終末の発表につながるため、まず聞かせてどのような語句が出てきたかを聞き取らせる。校内地図を見ながら聞かせる、答えの確認のために聞かせるなど、複数回聞かせる工夫をする。とよい。

Let's Watch and Think 1

どの部屋のことか聞いてみよう。：映像資料を視聴し、道案内の仕方に出会う。

- ★ 登場人物が自分のお気に入りの場所を、道案内をしながら紹介している映像を視聴し、道案内の仕方に慣れ親しむ。

Let's Chant : School Chant

- ★ まずはデジタル教材で音声を聞かせ、どのような教室名があったかを聞き取らせ、言えるところからビートに合わせて教室の場所の言い方を確認する。

Let's Listen 2

話を聞いて、当てはまる教室を線で結ぼう。：登場人物がお気に入りの教室を理由とともに言う音声を聞いて、登場人物と教室イラストを線で結ぶ。

- ★ 音声を聞かせる前に、イラストの教室を確認しておく。
- ★ 音声では、soという接続詞を使ってお気に入りの教室名とその理由を紹介している。このような複文は、小学校学習指導要領外国語活動では扱わないことになっているが、ここでは、音声を聞くのみであり、十分児童に理解できる内容となっている。

Let's Watch and Think 2

学校の様子を見て気づいたことを書こう。：外国の子供や先生が、自校の紹介をする映像を見て、日本の小学校との違いなど気づいたことを紙面に記入する。

- ★ 映像資料を視聴し、海外の学校はこうだと、ステレオタイプにならないように気を付けたい。ここでは、海外の学校の様子を知ることで、自分たちの学校の環境等に児童が興味を持つことをねらいとしている。

Let's Play 2

学校内の好きな場所を伝え合い、□に友だちの名前を書こう。：誌面にある9つの教室がお気に入りの場所という友達を見つけ、□に名前を記入する。

- ★ ここでは、お気に入りの場所について、その場所でどのようなことをするのか、あるいはなぜ好きなのかなどを加えて伝え合う。もうすぐ5年生を迎えるにあたり、一文加えて思いを伝えるよう指導していく。

Unit 8

Let's Listen 2 話を聞いて、当てはまる教室を線で結ぼう。

Let's Watch and Think 2 学校の様子を見て、気づいたことを書こう。

気づいたこと

-
-
-

Let's Chant School Chant

32

Unit 8

Let's Play 2 学校内の好きな場所を伝え合い、□に友だちの名前を書こう。

Activity ペアで好きな場所をしようかいし、その理由について知ろう。

	教室名	理由
あなた		

33

スクリプト

Let's Listen 2

- I like books, so the library is my favorite place.
- I love my classmates, so the classroom is my favorite place.
- I love lunch time, so the lunch room is my favorite place.

Let's Watch and Think 2

- Welcome to my school. I will show you my favorite room. Here we are. This is the music room. We play the piano, guitar, and violin here. Do you play the violin?
- Hi, I am Chris. Nice to meet you. I like basketball. I am a basketball player. This is the gym. I play basketball here. Do you like basketball?
- Nice to meet you. Welcome to my school. I

am Cotten. I am a teacher. Look. This is the science room. This is a microscope. This is a lens. I like to see something small through a microscope. Do you have a microscope? See you.

Let's Watch and Think 1 (p.31からの続き)

- (2) My favorite place is the computer room. We are at the library. Turn left at the classroom. Go straight, go straight, and turn left at the music room. And then you can find the computer room soon.
- (3) A: I have a headache.
B: Really? That's no good. Let's go to the school nurse's office together.
A: Thank you very much.
B: Follow me please. Now we are in front of the cooking room. The lunch room, the school principal's office, the teacher's office. Here we are. This is the school nurse's office.
B: It's very kind of you. I appreciate it.
A: You're welcome.

Activity

ペアで好きな場所をしようかいし、その理由について知ろう。：校内の好きな場所をその理由とともにペアで伝え合う。

- ★ 児童の実態に応じて、様々な取り組み方が考えられる。例えば、次のようなやり方がある。

<クイズ形式1>

- ★ ペアで自分のお気に入りの場所を紹介する。お気に入りの教室名を言わずに、校内地図をもとに現在地からお気に入りの教室までの道案内をする。案内された方は、それがどの教室科を答える。合っていれば、お気に入りの理由を言う。

<クイズ形式2>

- ★ お気に入りの場所が好きな理由を言う。それを聞いて、それがどこかを考えて当てる。

<インタビュー形式>

- ★ ペアでお気に入りの場所を尋ね、教室名とその理由とを聞いて表にそれらを記入する。
- ★ どの形式にするかによって、単元の立て方が異なってくる。単元ゴールをまず決め、バックワードデザインで単元計画を立てるようにする。

指導者の表現例

Clear voice, please.
(はっきりした声をお願いします。)
Once more, please. / One more time, please. (もう一度お願いします。)
I don't know. (分かりません。)
I'm finished/done (終わりました。)
Well done. (よくできました。)
Fantastic. (素晴らしい。)

ここではLet's PlayやActivityの際に使う主な英語を解説しています。



UNIT 5 She can run fast. He can jump high.

できること

単元
目標
(8時間)

- ・文字には読み方のほかに音があることに気付き、文字の音が分かるとともにできることやできないことを尋ねたり答えたりする表現が分かる。(知識・技能)
- ・まとまった話を聞いて、具体的な情報を聞き取るとともに、第三者についてできること、できないことを含めて紹介する。できることなどについて、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現で書かれたものの意味が分かり、相手に伝える目的を持って例を参考に書き写す。(思考力・判断力・表現力等)
- ・他者に配慮しながら自分や第三者ができることできないことなどを紹介しようとする。(学びに向かう力・人間性等)

言語
材料

- Can you (sing well)? Yes, I can. / No, I can't. I/You/He/She can/can't (sing well).
- 動作 (do, swim, cook, sing, ride, dance, speak, draw), スポーツ (judo, karate, kendo), 身の回りの物 (bicycle, unicycle, recorder, piano, guitar), can, he, she, fast, well, high

このUnitで学習すること

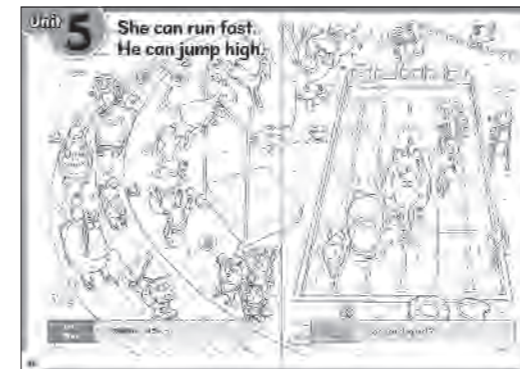
文字の音と三人称

本単元では、文字には名称のほかに音があることに気付かせ、それに慣れ親しむことをねらいとしている。5年生のUnit 1 から4にかけては、中学年の外国語活動を通して十分慣れ親しんだ大文字、小文字とじっくりと時間をかけて出会い直しをした。児童はこの時点で多くの文字を目にし、身の回りにはたくさん英語で書かれたものがあることを知っている。文字には名称のほかに音があることに気付いている児童もすでに少なからずいると思われる。そこで、本単元において、それぞれの文字で始まる単語の初頭音に意識を向けさせ、文字の音への気付きを促すことを目指す。このことが単語を類推して読む力となり、後々、読むことの領域別目標にある「音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする」ことへつ

ながり、今後の児童の読みの力を支えるものになると思われる。書写の指導もこの単元で、一単語から徐々にスタートする。ここでは、情報を記録したり、発表の前にまとめをしたりといった意味ある活動として行う。

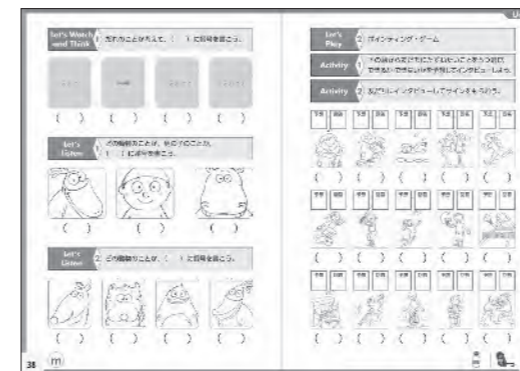
また、この単元では、三人称に初めて出会う。中学年の外国語活動においては、一人称と二人称のみで思いを伝えあってきた児童が、やがて三人称を使って自分の身近な家族や友達の話をしたくなるのはごく自然な流れである。高学年児童の発達の段階を考へても三人称導入に無理はないと考えられる。しかし、中学校の英語教育で多くの生徒がつまずくとされる三人称単数形の動詞変化をここで扱うことは小学生には負荷が大きい。そこで、本単元ではcanとともに扱うことで動詞変化を回避している。

指導の流れ



1 本単元での学習内容を想起する。(2時間)

誰が一番速く走れるか、一番高く跳べるか、一番速く泳げる(歩ける)かを、動物たちが競っている。この見開きを見ただけで児童は、I can ~. You can ~.の意味を十分理解すると思われる。この見開き場面の情報が、Let's Listen 1, 2の聞き取りの手助けとなる。



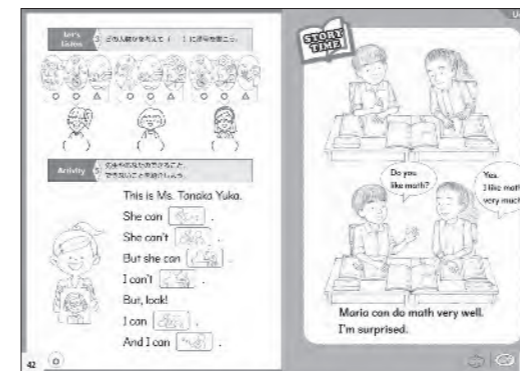
2 「できる」「できない」を表す表現に出会い、使う。(2時間)

児童は、馴染みのある世界で活躍するスポーツ選手や研究者についての話を聞き、I can ~.の表現に出会う。彼らについて初めて知る情報もあり、児童の興味を引くと思われる。また、これまでに慣れ親しんできた動作を表すActivityの語句は、本単元以降も児童の様々な発話を助ける辞書的なものとなる。



3 「三人称」に出会う。(2時間)

児童は、二人の子供ができること、できないことについて話しているのを聞いた後、その会話を聞いていた子供が二人のことを紹介するという場面設定の中で、三人称に出会う。そして、校内の先生にインタビューをし、その結果をもとに先生を紹介する文を考えることで、三人称への理解をより深める。



4 身近な人を紹介する。(2時間)

児童は、よく知っているスポーツ選手についての説明や、登場人物が先生を紹介するのをモデルとして聞き、自分たちが校内の先生にインタビューしたことをもとに先生の紹介を楽しむ。また、STORY TIMEの場面は、Mariaが算数を得意だということをKazuが知る場面であり、学校生活にありがちなことである。

Let's Play 1

どの動物か、当てよう：できること・できないことを予想して尋ねたり答えたりする。

- ★ この活動に入る前に、まずは指導者が児童に誌面の動物のどれかになって、その動物ができることを紹介するとよい。その際に、以下のことに注意する。
- ★ 誌面のカンガルーは、他の動物とともにトラックを走っているが、実際のカンガルーは走らず、跳んで遠くへ移動をする。そのため、正確には、I can run fastではなく、I can jump high.となる。また、p.37の誌面のカバについても、ほかの動物とともに泳いでいるが、実際のカバは水中では泳いでいるのではなく、とても速いスピードで歩いている。よって、正確には、I can walk fast.となる。

- ★ 一人が、誌面の動物のうちのどれかになり、グループのほかの児童が質問をして、どの動物になったかを当てる。

Ex. A：うさぎを選ぶ

B：Can you jump?

A：Yes, I can. I can jump.

C：Can you sing?

A：No, I can't. I can't sing.

D：Can you swim?

A：No, I can't. I can't swim.

B, C, D：(相談する) Are you a grasshopper?

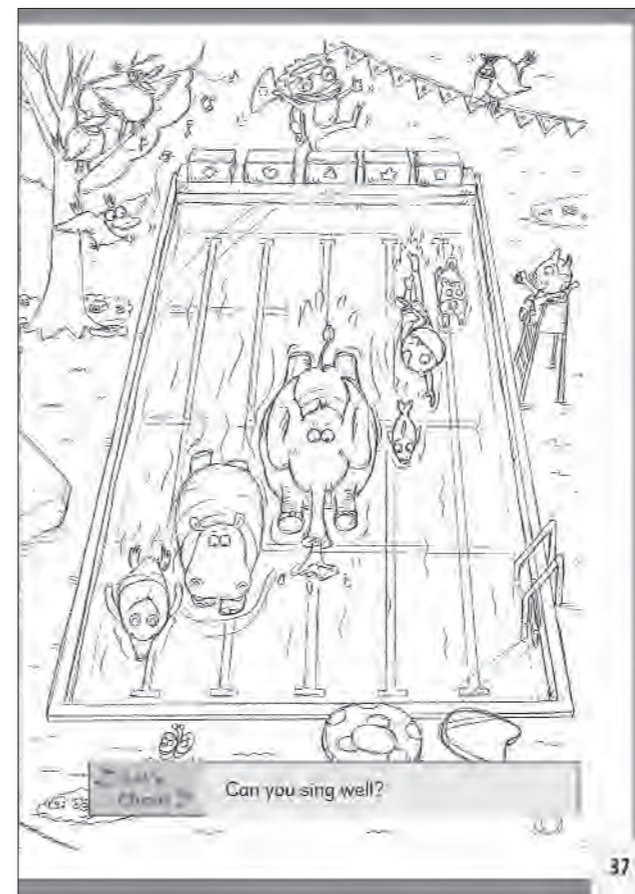
A：No, I'm not. I'm a rabbit.

Aの役を交代して続ける。

Let's Chant : Can you sing well?

音源にのせて、何度も聞いたり言ったりして、表現を使えるようになる。

- ★ 最初は一度ゆっくりバージョンで聞き、何が聞こえたか確認する。
- ★ 何度か繰り返し、パートを分けて、クラス半分あるいは班ごとに言う。
- ★ ゆっくりバージョンに慣れてくれば、速いバージョン、またはカラオケバージョンにして十分に音声に慣れ親しませる。
- ★ いくつかのオプションを児童の実態に合



スクリプト

Let's Chant : Can you sing well?

Can you run fast?
No, I can't.
Can you jump high?
No, I can't.
Can you dance well?
No, I can't.
Then, can you sing well, Bird?
Yes, I can.
I can sing well and fly high.



○オプション1
I can run. I can swim.
Who am I? I'm a dog.
I can jump. But I can't swim.
Who am I? I'm a rabbit.
I can run. I can swim.
And I can jump.
Who am I? (clap) It's me!



○オプション2
(うさぎが魚に聞く)
Can you jump?
No, I can't. I can't jump. But I can swim fast.
(魚が鳥に聞く)
Can you swim?
No, I can't. I can't swim. But I can sing well.
(鳥がカンガルーに聞く)
Can you sing?
No, I can't. I can't sing. But I can jump high.



○オプション3
This is my friend, Kosei.
He can run fast. Very fast.
He can play Kendama and swim very well.
This is my teacher, Ms. Tanaka.
She can sing well. Very well.
She can play the piano and ride a unicycle.



I can't run fast. But I can jump high.
I can't sing well. But I can cook well.
How about you?

わせて短時間学習で取り入れることもできる。

Jingle : Animal Jingle

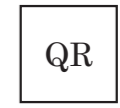
音源を使って、26文字で始まる動物の言い方に慣れ親しむとともに、文字に音があることに気付く。

- ★ 教え込むのではなく繰り返しジングルを言うことで、ゆっくりじっくりと文字とその音の学びを深め、児童の実態に合わせた指導を進めることが大切である。
次のような手順ですとよい。
- ① 言えるところは一緒に言う。
- ② 動物の言い方の最初の音に注目しみんなで言う。慣れれば、文字の名称・文字の音・動物の言い方の3つのグループに分かれて言う。
- ④ 異なったバージョンをみんなで聞き、言えるところは一緒に言うようにする。
- ⑤ 児童用テキスト巻末ジングル・シート(p.●)の絵を見ながら、ペアで交代にジングルを言う。
- ⑥ アルファベットを見ながら、ジングルを言う。

指導者の表現例

Look at your textbook.
(テキストを見なさい。)
I'm going to tell you about one animal in this picture. (この絵の中のある動物について説明します。)
Listen to me. (聞いていてください。)
What animal is it? (どの動物でしょうか。)
That's right. It's a rabbit.
(その通りです。うさぎです。)

ここでは、キー・ワード・ゲームの際に使う英語を解説しています。



What can you do?

Let's Watch and Think 1

だれのことか考えて、()に番号を書こう。:映像資料の音源を聞いて、聞き取れたことや繰り返し出てきた表現によってcanや動作を表す言葉に出合う。また、本単元最後の活動への見通しを持つ。

- ★ 最初はヒントを与えず音声だけを聞かせ、どんなことが聞こえたか問いかける。

Let's Listen 1 (動物編1)

どの動物のことか、男の子のことか、()に番号を書こう。: 音声を聞いてどの動物なのかを考え、イラストの下に番号を記入する。

- ★ 三つのイラストが、p.36,37のどれかを確認した上で、音声を聞かせるようにする。
- ★ 答え合わせの際には、単に番号を確認するのではなく、I can ~. I'm ~.と続いて言うように促す。

Let's Listen2 (動物編2)

どの動物のことか、()に番号を書こう。:音声を聞いてどの動物かを考え、イラストの下に番号を記入する。

- ★ 前活動と違い、より特徴的に速く走れたり高くジャンプできたりすることを動物たちが会話している。
- ★ イラストの動物がp.36,37のどれかを確認した上で、音声を聞かせるようにする。

Let's Play 2

ポインティングゲーム:教師用絵カードで動作の言い方を確認した後、p.38にある15種類のイラストを使って行う。

- ★ 最初は各児童が自身のテキストで行う。一人で取り組むことで、動作を表す語句をじっくり聞かせるようにする。慣れてきたらペアで1冊のテキストを使用して行う。

スクリプト

Let's Watch and Think 1



- No.1. I am a doctor and a researcher. I got Nobel prize in 2012. I can speak English. (山中伸弥教授)
- No.2. I can jump on the ice. I like music. I can skate very well. (羽生結弦選手)
- No.3. I like sports. I can speak Chinese. I can play table tennis very well. (石川佳純選手)
- No.4. I am from Ehime. I can speak Italian. I can play soccer very well. (長友佑都選手)

Let's listen 1



- No.1 I can sing. And I can swim. Who am I?
- No.2 I can sing. But I can't swim. Who am I?
- No.3 I can swim. But I can't sing. Who am I?

Let's Listen 2

- No.1 I can run very fast. But I can't sing well. Who am I? (チーター)
- No.2 I can jump high. But I can't swim. Who am I? (カンガルー)
- No.3 I can sing very well. But I can't swim. Who am I? (とり)
- No.4 I can swim very fast. But I can't run very fast. Who am I? (ペンギン)



Small Talk

好きなスポーツ
 T: Look! Look at this. What's this?
 Ss: A racket.
 T: Yes, that's right. It's a racket. It's a badminton racket.
 This is my badminton racket. I can play badminton very well. (ラケットを振って見せる)
 I can play badminton very well. Can you play badminton well? Do you like badminton? I love

Activity 1

下の絵から友だちにたずねたいことを5つ選び、できるか・できないかを予想してインタビューしよう。: 事前に5つ選んだ質問に対し相手ができるかできないかを予想して○、△を記入した上で、質問し合う。

- ★ 答えを聞く際には、You can swim. That's great.など、反応を示しながら聞くよう促す。

Activity 2

友だちにインタビューして、サインをもらおう。: 室内を歩いて回り、友達に誌面にあることについてできるかどうかを尋ね、できる場合は、イラスト下に名前を書いてもらう。

- ★ インタビュー結果を、友達のできることを紹介する活動にも使える。

指導者の表現例

Listen and watch carefully.
 (注意して、聞いたり見たりしてください)
 What did you hear?
 (何が聞こえましたか?)

視聴する前は、常に集中してしっかり情報を聞き取るように声をかけるようにする。



badminton very much. It's very fun. I'm a good badminton player. I can play it very well.
 Can you play badminton? Can you play soccer well? (ボールを蹴るジェスチャーをしながら) Can you play the piano well? (ピアノを弾くジェスチャーをしながら) Can you dance well? (ダンスのジェスチャーをしながら) Can you play Kendo? (竹刀を振るジェスチャーをしながら) I can play badminton well.

Let's Watch and Think 2

世界の友だちがどんなことができるか、できることを○、できないことを△で囲もう。:二人の子どもたちができることやできないことを尋ねたり答えたりする映像資料を視聴し、具体的な情報を聞き取ることができるようにする。できることに○、できないことに△を付ける。

- ★ 児童の実態に合わせて、映像資料を視聴する前にテキストの絵を見ながら予想を立てるとともに、語句の確認をするとよい。
- ★ 二人のやり取りが長い場合、1回目は全体を視聴、2回目以降は、途中で止めて答えを確認するなど、児童の実態に応じて取り組むとよい。

二人について、分かったことを□に書こう。:二人の会話を聞いていたさとしがその情報をまとめながらHe / She を使って紹介する映像資料を視聴し、分かったことを□に書く。

- ★ 児童は、視聴して、自身の前の活動の答えが合っているかを確認する。
- ★ 児童の実態に応じて□に英語で書くことも考えられる。しかし、書く活動に関しては、児童の間で差が著しく出るので慎重に指導を進める。ここでは、He / Sheを使った表現を聞き取ることがねらいであり、英語で正確に情報を書くことは求めない。
- ★ 内容が分かるように、必要に応じて何度か聞かせるようにする。

Activity 3

インタビューの準備をしよう。先生のできることを○、できないことを予想して、□にカードをおこう。:班ごとにインタビューに行く先生を決め、インタビューの準備をする。先生の名前を書き、HeまたはSheを4線に書いた後、先生のできることを、できないことを予想して絵カードを置く。

- ★ 絵カードに書かれたものを参考に意味を考えながら丁寧に書写する。

スクリプト

Let's Watch and Think 2

J : Hi, Christina.
 C : Hi, John.
 J : Cristina. Are you from the USA?
 C : No, I'm not. I'm from the Phillipines. How about you, John. Where are you from?
 J : I'm from Australia.
 C : I see. What sport do you like, John?
 J : I like swimming. I can swim fast. How about you, Christina? What can you do?
 C : Oh, I can ride a unicycle very well. And I can cook. I can cook curry and rice. Can you cook, John?
 J : No, I can't. I can't cook.
 C : Do you like music, John.
 J : Yes, I do. I like music but I can't play the piano.
 C : That's OK. I can't sing well but I like music very much.

QR

J : Oh, one more thing. I can play *kendama*!
 C : Nice. I want to try *kendama*.

Satoshi : Hello! My name is Satoshi.
 My friend John is from Australia. He can swim fast and he can play *kendama*. He can't cook. And he can't play the piano.
 My friend Christina is from the Phillipines. She can ride a unicycle. She can cook. She can cook curry and rice.
 But she can't sing well.

QR

指導者の表現例

Let's prepare for the interview.
 (インタビューの準備をしましょう)
 Who do you want to interview?
 (誰にインタビューしたいですか?)
 Write "She" or "He" on the line.
 (SheかHeを線上に書きましょう)
 Copy the words from the cards.
 (カードから書写しましょう)

丁寧に書くように指示する場合、Write it neatly. という表現が使える。Mind the lines. (線に注意して)、あるいは Touch the line. (線を触るまで) といった表現も英語圏の子供たちの指導には使われることがある。

QR

- ★ 学級の実態に応じて、インタビューに行く先生を相談やくじ引きで決めさせる。
- ★ 班の中で質問事項が重複しないように、聞きたいことを考えさせ、誰がどんな質問をするのかなど、インタビューの準備をさせる。
- ★ 次時までに必ず班でインタビューに行くておくことや、インタビューをする際の注意などを確認しておく。

Activity 4

インタビューしてわかったことを書こう。:先生にインタビューしたことをもとに、その先生ができることできないことを自分のことも含めてペアでスピーチする。

<準備>

- ★ 既出表現についてどんな表現が使えるか、どんなスピーチが良いか、また悪いか、の例を挙げさせて交流してから始めてもよい。
- ★ 互いのスピーチについて良かったところや分かりにくかったところなどをアドバイスし合い、ジェスチャーを入れるなどの改善をして、次時のスピーチの準備をする。

<発表>

- ★ 発表前には、具体的なイメージを共有するため指導者が実際にデモンストレーションを見せ(悪い例)、どんな点を改良するべきかを具体的に考えさせることもできる。
- ★ 評価の視点や、目指すべき姿を事前に共有した後、発表を行う。聞いている児童は、ワークシートに聞き取れた内容を記入する。
- ★ 前半の発表が終わったところで、良い発表について、児童と具体的に共通理解し、後半の発表につなげる。
- ★ 友達の発表を聞く際には、聞く姿勢も大切であることを伝え、しっかり聞いた後に聞き取れたことを記入するよう伝える。

Let's Listen 3

どの人物かを考えて () に番号を書こう。: 音声を聞いてどの人物かを考え、イラストの横の () に番号を記入する。

- ★ 一度みんなで聞いた後、さらに繰り返し聞くことで全員が聞き取れるようにする。
- ★ 答え合わせの際には、単に番号を確認するのではなく、センテンスごとに音声に続いて言わせるようにする。
- ★ 回答を確認した後、さらに指導者が“She can~.” “She can't~.” とリードして残りを言わせることで、表現への理解がより深まる

Activity 5

先生やあなたのできること、できないことを紹介しよう。: インタビューの結果を整理し、スピーチの準備し、発表する。

- ★ スピーチでは自分のことや感想も含めて伝えられるようにする。
- ★ 誌面の登場人物のスピーチメモが、児童が先生のことを紹介する際のモデルの一つとなる。登場人物のスピーチメモはすべて文字で表しておらず、一部をイラストで表している。これは、こうすることで、児童に英語の文構造への気付きを促せると思われる。
- ★ また、スピーチの際には、誌面イラストにあるようにポスターなどを作成して、それをもとにスピーチを行う、Show and Tell形式で行うのもよい。そうすることで、児童がポスターを見ながら話すことで、話し方に余裕が生まれる。また、聞く側も、ポスターを見ながら話を聞くことで、内容の理解がしやすくなると思われる。

STORY TIME

- ★ Unit 1 から読みためてきた絵本も5ページ目となる。転校生のMariaの席は、Kazuの隣に決まった。ちょうど算数の時間となり、まだ教科書がないMariaにKazuが教科書を見せている。日本語は十

Let's Listen 3 どの人物かを考えて () に番号を書こう。

Activity 5 先生やあなたのできること、できないことを紹介しよう。

This is Ms. Tanaka Yuka.
 She can .
 She can't .
 But she can .
 I can't .
 But, look!
 I can .
 And I can .

42

スクリプト

Let's Listen 3

- No.1 She can jump high. She can ride a unicycle well. But she can't swim well. Who is she? (Christina)
- No.2 She can ride a unicycle well. She can cook well. But she can't play kendama. Who is she? (さき)
- No.3 She can play badminton well. She can swim fast. But she can't cook well. Who is she? (あおい)

QR

Small Talkの書き方

好きな有名人
 Today, I have a picture of someone. (写真を手に児童に話しかける)
 He is an athlete. Do you know the word "athlete"? (児童の予想される答え: 「アスレチック」「運動選手」)

Unit 5

STORY TIME

Do you like math?
 Yes. I like math very much.

Maria can do math very well.
 I'm surprised.

43

Yes, he is a sport player. Who is he? (いくつか出てくるスポーツ選手名に対して、その名前だけを繰り返し、正解は言わない) Ichiro? Maybe.
 I give you 3 hints. Hint No.1. He can jump high. (跳び上がって見せる)
 Hint No.2. He can turn very well. (回って見せる) Do you know who he is? Any ideas? (児童に問いかけるが、ここでも正解は言わないで続ける)
 Hint No.3. He was in the Olympic in Brazil. Who is he?

Small talk

尊敬する人
 This is (the picture of) my family. My father, mother and me. (写真を見せながら、あるいは黒板に簡単な家系図を描いて) My mother can play volleyball very well. Do you know volleyball? (ジェスチャーをして見せる) She can play the piano very well, too. (手でピアノを弾くジェスチャー) She can speak English a little. (指で少しというジェスチャー) She can't swim but she can cook

QR

指導者の表現例

Can you guess what she/he can do?
 (彼女(彼)が何をできるか予測できますか。)
 If you think she can do it, put the circle on the picture. (もしできると思えば○を絵の上に記しなさい。)
 If you think she can't do it, put the triangle on the picture. (もしできなと思えば△を絵の上に記しなさい。)

He / Sheを使った表現では、だれの話をしているか意識をした発話を促すようにしましょう。相手意識を持って、お互いがわかる誰かについて話しているのだと自覚できるように、実際の場面ではその友達を手で示したり、最初にThis is _____と紹介して話を始めたいところです。

QR

very well. Her Oden is the best. She is a nurse. She is kind to everyone. She is great!

STORY TIME

Do you like math?
 Yes, I like math very well.
 Maria can do very well with math.
 Amazing!

QR

UNIT 5 My summer vacation

夏休みの思い出

単元目標
(8時間)

- 過去の表現の仕方が分かったり、夏休みの思い出について基本的な表現で書かれた英語を書き写す。(知識・技能)
- 夏休みの思い出について話される英語を聞いて、その概要を捉えたり、夏休みの思い出について自分の考えや気持ちを伝え合う。夏休みの思い出について簡単な語句や基本的な表現で書かれた英語を読んで、その意味が分かり、例を参考に自分の夏休みの思い出について話したことを語順を意識しながら書く。(思考力・判断力・表現力等)
- 夏休みの思い出について、伝えようとしたり、書いたりしようとする。(学びに向かう力・人間性等)

言語材料

- I went to my (grandparents' place). It was (fun). I enjoyed (fishing). It was (exciting). I saw (the blue sea). It was (beautiful).
- grandparent, vacation, 動詞の過去形 (went, ate, saw, enjoyed, was), 自然 (beach, mountain, sea, lake, river), 動作 (fishing, hiking, camping)

このUnitで学習すること

夏休みの思い出について伝え合う

本単元は、夏季休業日(以降、「夏休み」)後に実施することを想定している。夏休み明けの最初に学習する時期を考えたとき、夏休みの思い出を題材とすることは、児童にとって聞いたり話したりする必然性があるとともに、夏休みにしたことという「日常生活に関する身近で簡単な事柄」について聞いたり話したりすることは、学習指導要領目標にも合致している。ただし、家族旅行に出かけた児童とそうではない児童がいることなど、夏休みに経験したことには個人差があるため、そのことに対しては必要に応じた配慮が必要である。

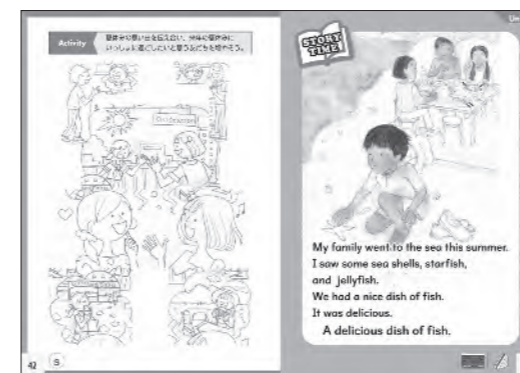
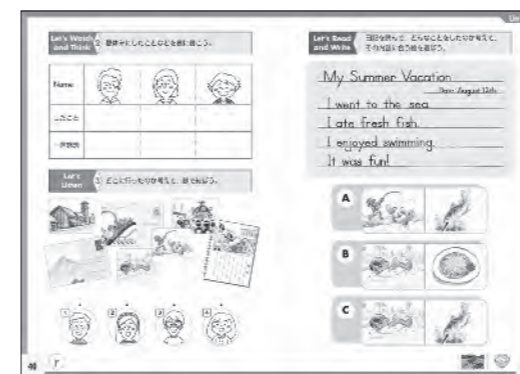
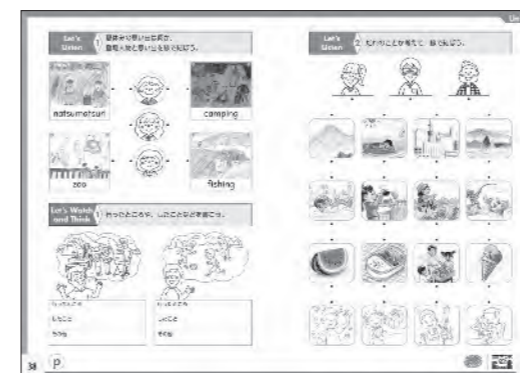
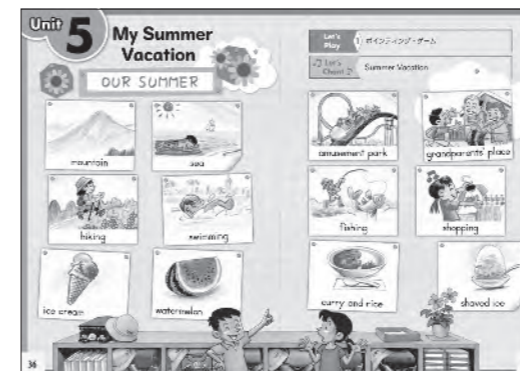
上記を踏まえて、本単元では、過去の表現が分かり、夏休みに行った場所や、そこで楽しんだこと、感想などについて伝え合ったりすること、また、それらについて書かれたものを読もうとしたり、話したことを書こうと

したりすることを目標としている。

そこで、本単元では、夏休みの思い出について伝え合う言語活動に取り組むことで、過去形を無理なく自然に活用できるようになる。なお、過去形が初出であることから、児童にとって難易度が高くないよう、取り扱う過去に関する言語材料は、went, ate, saw, enjoyed, wasに限定している。

また、本単元においても、「聞くこと」「話すこと」の言語活動に取り組み、語句や表現に音声で十分に慣れ親しませた後、単元後半でそれらを読んだり書いたりする構成としている。ただし、「読むこと」「書くこと」については、児童の負担感を考えて毎時間少しずつ慣れ親しむことが大切であることから、毎時間、Let's Read and Write や Sounds and Lettersを設定している。

指導の流れ



1 過去のことを表す表現に出会う (2時間)

夏休み明けには、教室後ろの掲示板に、児童の夏休みの思い出が掲示されたり、後ろのロッカーや棚の上に、児童が夏休みに取り組んだ「自由研究」が飾られたりすることが多い。本単元のこの見開き頁もその場面を表している。まずは、この見開きを見せ、本単元では、夏休みが題材になることを児童に想起させたい。

2 登場人物が夏休みにしたことを聞いたり言ったりする (2時間)

本テキストの登場人物がどのような夏休みを過ごしたのかを、誌面にあるイラストをヒントに、音声を開いたり映像資料を視聴したりしながら理解する。この頁の活動で十分に児童にインプットをすることが大切である。

3 登場人物の夏休みを参考に、自分の夏休みについて友達と伝え合う (2時間)

登場人物の夏休みについて音声を聞いたり、映像資料を視聴したりして理解する。また、それをもとに自分の夏休みについて口頭で伝え合うとともに、誌面にある登場人物の夏休みの絵日記を読む。その際に、絵日記のイラストが大きなヒントになる。

4 相手意識を持って自分の夏休みを紹介する (2時間)

イラストで活動のイメージを持ち、これまで聞いたり話したりしたことを生かして、「来年の夏休みに一緒に過ごしてくれる仲間を増やす」ことを目的に、自分の夏休みの思い出を他者に配慮しながら伝え合う。Story Timeでは、絵本を通してKazuの夏休みについて知るとともに、ishのライム(押韻)を楽しむ。

Let's Play

ポインティング・ゲーム
指導者が夏休みにかかわる語彙を言うのを聞いて、その語を表す絵を指さす。

- ★ 本単元の題材である夏休みにしたことにかかわる語彙を聞いたり言ったりして十分に言い慣れることをねらいとしている。
- ★ 本活動に入る前に、児童用テキストp. 38 Let's Listenで児童は、登場人物が夏休みにしたことを聞き取る活動を行っており、夏休みにしたことを表すいくらかの語句には出合っている。本活動では、イラストとともにそれらの語句にゲームを通して出会う。
- ★ このゲームに入る前に、指導者は児童にテキストを閉じさせ、これらの語句を表すジェスチャーをやって見せ、児童から答えを引き出し、それを英語に直す形でこれらの語句に出合わせておくとよい。
- ★ 児童が慣れてきたら、ペアで一冊のテキストを真ん中においてこのゲームに取り組みせるとよい。その際には、次の三種類の進め方が考えられる。

〈ペアで仲良く〉

指導者が言う語句を表す絵を一緒に指さす。語句を理解しにくい児童がいる場合に行うとよい

〈ペアで競争〉

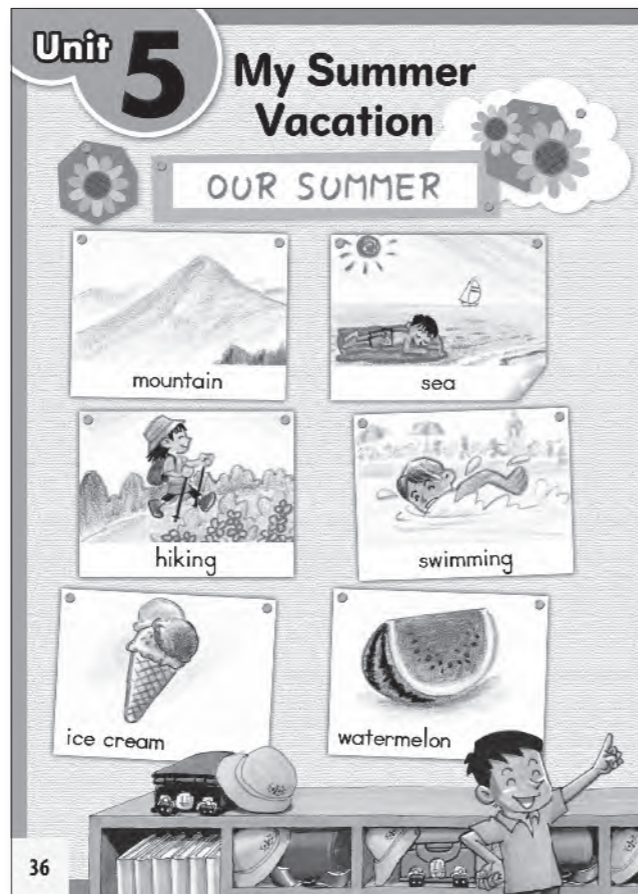
指導者が言う語句を表す絵を早く指さしたほうが勝ち。

〈ペアで指残し〉

指導者が言う語句を表す絵を早く指さした児童が1ポイントをもらえるが、指した指はそのままにして指し続ける。次に残りの指で絵を指していく。この方法であれば、早く分かった児童が必ずしも絵を指させるとは限らず、どの児童も勝つことができる。

- ★ この誌面上段の絵は、I went to ～. 中絶は、I enjoyed ～. 下段は、I ate ～. で表現できるものが並べてある。このことを生かして辞書的なものとして活用することも可能である。

- ★ 単調にならないよう、指導者は英語を話す速さや間を工夫する。例えば、初めは普



スクリプト

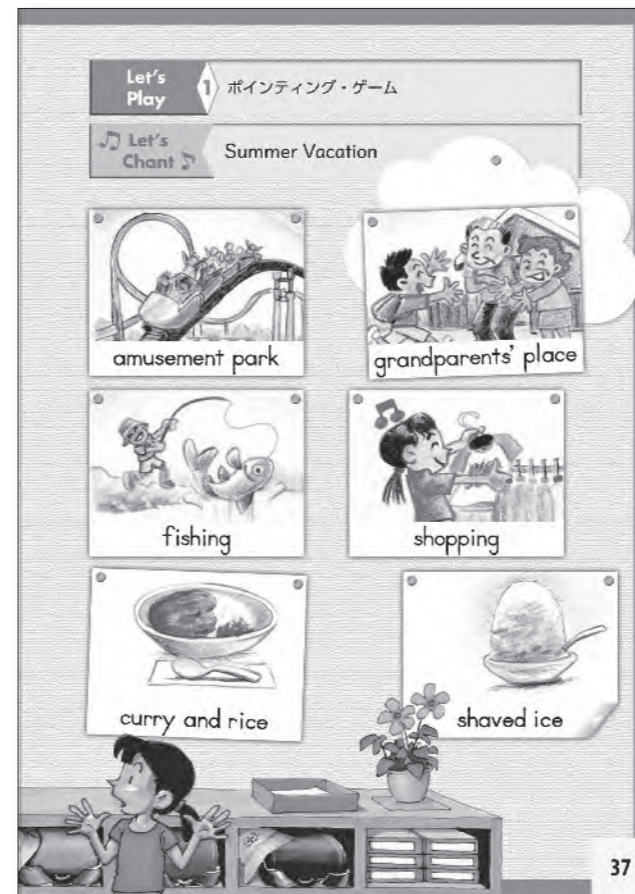
Let's Play

I went to the mountain.
I went to the sea.
I went to the amusement park.
I went to the grandparents' place.
I enjoyed hiking.
I enjoyed swimming.
I enjoyed fishing.
I enjoyed shopping.
I ate ice cream.
I ate watermelon.
I ate curry and rice.
I ate shaved ice.

QR

Let's Chant : Summer Vacation

My summer vacation, very nice.
I went to the mountain.
I went to the sea.



I enjoyed hiking.
I enjoyed swimming.
I ate ice cream.
I ate watermelon.
Ummm, nice vacation.

QR

通の速さで特段の間を取らずに言う。慣れてきたら、I went toで間を取り、the mountainを速く言うなどする。ペアで競わせることも、単調にならないための工夫になりうる。

- ★ 教師が言って児童に絵を指させることから始め、児童が慣れてきたら、ペアで取り組ませるとよい。

Let's Play

おはじきゲーム。: 各児童は12枚の絵から5つ選んで、絵の上におはじきを5つ載せる。指導者がこれらの絵の下にある単語を使った文を言ったら、その単語の絵の上にあるおはじきを取ることができる。早くおはじきがなくなった児童が勝ちとなる。

Let's Chant : Summer Vacation

リズムに合わせて夏休みに行った場所を言うチャンツ。

- ★ 本活動で扱う基本的な文で成り立っているチャンツである。よって、児童がこのチャンツのリズムに慣れてきたら、児童に行った場所を選ばせて言わせたり、主語をYouや児童の名前に替えたりするとよい。

指導者の表現例

- ・ Let's play Pointing Game. (ポインティング・ゲームをしましょう。)
- ・ When you hear the name, touch the picture. (名称が聞こえたら、それを表す絵を指しなさい。)
- ・ Let's play the game in pairs. (ペアでゲームをしましょう。)

ここでは、ポインティング・ゲームの際に使う主な英語を解説しています。

QR

Let's Listen 1

夏休みの思い出は何か、登場人物と思い出を線で結ぼう。: 音声を聞いて、登場人物と、その人の思い出を線で結ぶ。

- ★ 児童は、本活動において、I went to ~. I enjoyed ~. I saw ~. It was ~. の表現を初めて聞くことになる。したがって、導入として音声を聞かせる前に、指導者が自分自身の夏休みの思い出について、当該表現を使って話をするとよい。
- ★ 音声を聞かせる際は、1回目は全体を通じて、2回目は区切って聞かせるなど、児童の様子に応じて聞かせ方を工夫するとよい。
- ★ 音声を聞かせた後は、音声で出合った、I went to ~. や I enjoyed ~. などを繰り返し聞かせて慣れることができるようするため、This boy (誌面の男の子) went to ~. How about you, A san? など、児童とやり取りをするとよい。

Let's Watch and Think 1

行ったところや、したことなどを書こう。: デジタル教材を視聴して、登場人物が行ったところとそこでしたことを書く。

- ★ 本活動では、10文程度のまとまりのある英文を聞かせる。
- ★ 英文を聞かせる前に、何を聞き取ればよいかを確認する。また、内容に関する事前情報など(例えば、アメリカとオーストラリアの小学生が話すことや、「日本の夏休みは7月下旬から8月下旬までだがアメリカとオーストラリアの夏休みはどうだろう。」などと聞き、予想を持たせるなど)を伝えておくとう理解しやすくなる。
- ★ 単なる聞き取りの練習にならないようにするために、音声を聞かせる前に、「自分が過ごすならどちらの夏休みがいいかな」など、自分の考えを持たせる発問をすることが考えられる。
- ★ 音声を聞かせる際は、1回目は全体を通じて、2回目は区切って聞かせるなど、児童の様子に応じて聞かせ方を工夫するとよい。

Let's Listen 1 夏休みの思い出は何か、登場人物と思い出を線で結ぼう。

natsumatsuri camping

zoo fishing

Let's Watch and Think 行ったところや、したことなどを書こう。

行ったところ したこと その他

行ったところ したこと その他

38

スクリプト

Let's Listen 1

- ① I went to the mountain. I enjoyed camping. It was fun.
- ② I went to the zoo. I saw a panda. It was cute.
- ③ I went to the sea. I enjoyed fishing. I ate o-bento. It was delicious.

QR

Let's Watch and Think 1

A: Hello, everyone! I'm Mark. I'm in the USA. We have long summer vacation from June to August. I went to the mountain this summer vacation. It was beautiful. I enjoyed camping. It was fun.

B: Hello, everyone! I'm John. I'm in Australia. Australia is in winter now. I went to the park this summer vacation. It was nice. I enjoyed Australian football with my friends. It was exciting. I ate sandwiches. It was good.

QR

Unit 5

Let's Listen 2 だれのことか考えて、線で結ぼう。

Let's Watch and Think 行ったところや、したことなどを書こう。

行ったところ したこと その他

行ったところ したこと その他

39

Let's Listen 2

A: I went to the sea with my family. I enjoyed swimming. And I ate watermelons. It was fun.

B: I went to the country side. I enjoyed fishing. I ate o-bento. It was exciting.

C: I went to the town. I enjoyed shopping. I ate ice cream. It was delicious.

QR

指導者の表現例

- ・ Let's listen to the talk. (話〈デジタル教材〉の音声)を聞きましょう。)
- ・ Let's check the answer. (答え合わせをしましょう。)
- ・ Where did he/she go? (彼/彼女はどこへ行きましたか。)
- ・ What did he/she do/eat? (彼/彼女は何をしましたか/食べましたか。)
- ・ How did he/she feel? (彼/彼女はどのように感じましたか。)

ここでは、Let's ListenとLet's Watch and Thinkの際に使う主な英語を解説しています。

QR

い。

Let's Listen 2

だれのことか考えて、線で結ぼう。: 音声を聞いて、誰のことが話されているかを考え、内容に合う絵を線で結ぶ。

- ★ 音声を聞かせる前に、誌面にある絵の英語での言い方(mountain, sea, swimming, watermelonなど)を、必要に応じて復習する。その際、発音や意味の確認だけに留まらず、例えばswimmingであれば、Do you like swimming? などとその語を使って児童とやり取りをすることが大切である。
- ★ 英文を聞かせる前に、何を聞き取ればよいかを確認する。
- ★ 内容を予測しながら聞くという聞き方を身に付けることも大切なことである。そのため、I went to the sea with my family. まで聞かせたらそこで音声を止め、「そこで何をしたと思う?」「何を食べたと思う?」などとその続きを予想させ、その後続きの音声を聞かせるという指導も考えられる。
- ★ 音声を聞かせる際は、1回目は全体を通じて、2回目は区切って聞かせるなど、児童の様子に応じて聞かせ方を工夫するとよい。
- ★ 誌面には内容に関する絵が示されているため、それが手がかりとなり内容を理解しやすくなる。一方で、手がかりなく音声だけを聞いて必要なことを理解できる力を育てるために、初めは誌面を閉じさせ、音声だけを聞かせることも考えられる。

Let's Watch and Think 2

夏休みにしたことなどを表に書こう。: 視聴覚教材を視聴し、登場人物が夏休みにしたことや感じたことを聞いて表に記入する。

- ★ 本活動では、対話形式で話が展開されるため、Did you ~? という未習である過去形の疑問文が使われている。その他にも未習語があるが、その部分にこだわることなく、必要な情報に意識を向けて聞き取らせるようにする。
- ★ 対話は、二種類あり、まず TriciaとCraig、次にYokoとKenが話している。誌面の表には、Craig, Tricia, Kenの三人の夏休みについて記入する。
- ★ 登場人物である外国人の子供の名前が日本人には馴染みがないため聞き取りにくい児童がいることも予想される。そのため、教材を視聴する前に、名前を伝えておくなどの支援を必要に応じて行うことが考えられる。
- ★ 本活動で児童の聞く英文は、これまでのLet's ListenやLet's Watch and Thinkでの英文の中で最も多い。何を聞き取ればよいかを確認したり、途中で止めたりするなど、聞かせ方の工夫をするとよい。
- ★ 答え合わせをする際に、単に答えを児童に日本語で発表させるのではなく、指導者がCraig went to ~? He enjoyed ~? と児童に英語で答えを続けて言うよう促すことで、本単元で扱う表現を何度も聞かせたり言わせたりするようにする。

Let's Listen 3

どこに行ったのか考えて、線で結ぼう。: 音声聞いて、4人の登場人物がどこへ行ったかを考え、内容に合う絵を選ぶ(線で結ぶ)。

- ★ 音声で、登場人物が楽しんだことや、食べたもの、感想などを聞き取り、それらから夏休みにどこに行ったかを推測する活動である。ゲーム的要素が取り入れられているが、一気に聞かせると難しく感じる児童もいるので、一人の音声が終わるたびに、

Let's Watch and Think 2 夏休みにしたことなどを表に書こう。

Name			
したこと			
一言感想			

Let's Listen 3 どこに行ったのか考えて、線で結ぼう。



スクリプト

Let's Watch and Think 2

Tricia : Hi, Craig. You look happy. Did you have a good time during summer vacation?
 Craig : Yes. I went to the White Mountains. I enjoyed hiking with my family. It was great. How about you? How was your summer?
 Tricia : I went to the baseball stadium. I enjoyed a baseball game. It was very exciting.

Yoko : Hi Ken. How was your vacation? Did you enjoy it?
 Ken : Well, we went to the river, but it rained every day.
 Yoko : Oh, that's too bad.
 Ken : But I enjoyed food there. The fish was specially fresh and good.

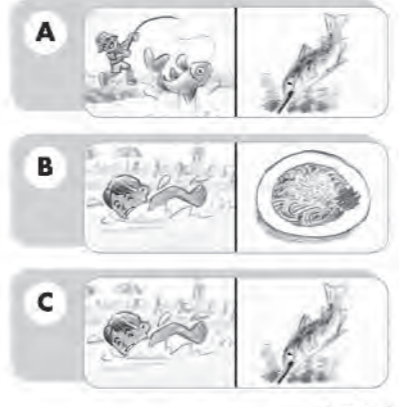


Unit 5

Let's Read and Write 日記を読んで、どんなことをしたのか考えて、その内容に合う絵を選ぼう。

My Summer Vacation
 Date: August 12th

I went to the sea.
 I ate fresh fish.
 I enjoyed swimming.
 It was fun!



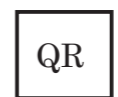
Let's Listen 3

- I went to xxx. It was beautiful. I enjoyed camping. It was fun. I ate curry and rice. It was delicious.
- I went to xxx. It was wonderful. I enjoyed shopping. It was fun. I ate pizza. It was great.
- I went to xxx. It was beautiful. I enjoyed fishing. It was exciting. I ate shaved ice. It was cool.
- I went to xxx. It was great. I enjoyed roller coaster. It was exciting. I ate a hamburger. It was delicious.



Let's Read and Watch

My Summer Vacation Date : August 12th
 I went to the sea.
 I ate fresh fish.
 I enjoyed swimming.
 It was fun!



間を置き、児童にイラストをもとに考えさせるようにする。また、一人の音声も、一文ずつ聞かせ、その先を予想させるなどの工夫をするとよい。

Let's Read and Write

日記を読んで、どんなことをしたのか考えて、その内容に合う絵を選ぼう。: 誌面の日記に合う絵を、下から選ぶ。

- ★ 本活動で、これまでに聞いたり言ったりして音声で十分に慣れ親しんだ表現が書かれたものを読んで、その内容が分かることをねらいとしている。そのねらいに向けて、1時間目からほぼ毎時間、ワークシートに記された一文中の()内に、自分の思いに合う文意にするために、ワードボックスから単語を選んで書き写す活動を丁寧に行っている。そうやってためてきた英文は、I went to ~. I ate ~. I enjoyed ~. It was ~.であり、本活動で提示されている日記と同じ形式のものである。そのため、この日記に記された英文に抵抗感を示す児童はほとんどいないと思われる。
- ★ また、先述のとおり、1時間目から聞いたり言い慣れたり、見慣れたりしている英文とはいえ、まとまった量の英文を読む活動に児童が抵抗感なく取り組むことができるよう、ここでは、次のような手順を踏んでいる。①まず、自分で読んでみる。②日記の内容を表した映像資料を視聴する。③映像資料の音声に合わせて日記の英文を読む(言う)。④自分で読む。

指導者の表現例

- ・ Let's read the diary. (日記を読みましょう)
- ・ Which picture matches the diary? (どの絵が日記の内容と合うでしょう)

ここではLet's Read and Watchの際に使う主な英語を解説しています。



Activity

夏休みの思い出を伝え合い、来年の夏休みにいっしょに過ごしたいと思う友だちを増やそう。：ペアになり夏休みの思い出を伝え合う。

- ★ 本活動では、相手に、「私もそのような夏休みを一緒に過ごしたいな」と思ってもらえるよう自分が過ごした夏休みの楽しさなどを伝える。したがって、本活動で大切なことは、「私もそのような夏休みを一緒に過ごしたいな」と思ってもらえるように夏休みの思い出を話すという目的を意識させることである。
- ★ 目的意識を強く持たせることにより、聞き手が理解できているかを確認したり、伝わっていないかゆっくり話したり、繰り返し話したりするという姿を生み出すことにつながる。また、Do you like fishing? や Do you know XX park? など、既習表現を積極的に使用させることも可能であろう。このような、相手意識に立って話したり聞いたりすることは、「他者に配慮しながら伝える」ことである。
- ★ 活動後は、誰の夏休みを、自分も過ごしてみたいと思ったかを発表する。可能であれば、○○（選んだ友達の名前）went to ～. He/She enjoyed～. などと英語で言わせてもよい。

- ★ この誌面は、この活動のイメージ図であるが、ぜひ活動の導入などで活用したい。誌面では、二人の女兒が夏休みの思い出を伝え合っている。それぞれが夏休みにしたことがバブルの中に描かれている。

左女兒：I went to the department store. I enjoyed shopping. I ate ice cream. It was delicious.

右女兒：I went to the mountains. I enjoyed hiking. I ate a rice ball. It was fun.

二人の間には、その二人が、互いの夏休みにしたことを聞いて、来年同じようなことを一緒にして過ごしてみたいと思っている様子を描いている。また、誌面上方には、この二人の女兒以外の児童がそれぞれ夏休みの思い出を伝え合っている様子を描



スクリプト

Story Time

My family went to the sea this summer.
I saw some sea shells, star fish, and jelly fish.
We had a nice dish of fish. It was delicious.

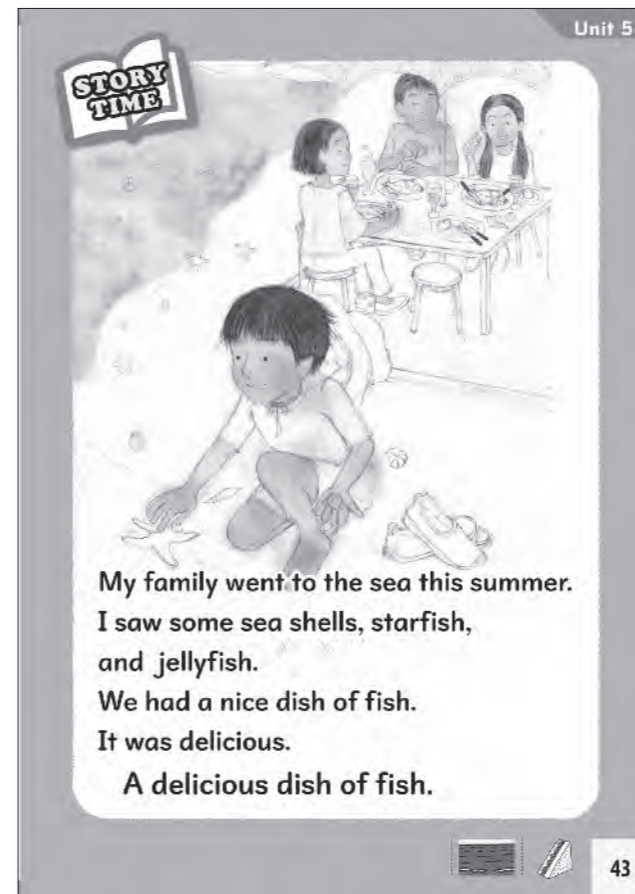
A nice, delicious dish of fish.

QR

いている。例えば、この女兒二人を題材に次のような説明をして、本活動に入ることが考えられる。

- ★ 左女兒の夏休み、右女兒の夏休みについて児童に問いかけ、児童にShe went to ～. She ate ～. She enjoyed ～.などを引き出す。それに対して、指導者は、デジタル教材でイラストを指し示しながら次のような説明をする。

That's right. They are good friends. Good summer vacation. (左女兒のバブルを指さして)
Good summer vacation, too. (右女兒のバブルを指して)
And September, October, November, December, January, February, March. (カレンダーを指しながら)



In April they are not 6-nensei. They are junior high school students.
She is a ○○ junior high school student. (左女兒を指して)
She is a △△ junior high school student. (右女兒を指して)
In summer vacation. Hi! Hi! (中央の二人が中学生になって夏休みに出会う場面を指さして)
Let's go shopping! OK, let's! (左女兒のバブルを指して)
Let's go hiking! OK, let's! (右女兒のバブルを指して)
They are good friends. Now, it's your turn. Please tell your summer vacation to your friends. And please find good friends for the next summer vacation.

指導者の表現例

- ・ Listen to the rhyme. (ライムを聞きなさい。)
- ・ Repeat after the rhyme words. (ライムの語を繰り返しなさい。)

Story Time

本単元で学習した表現が含まれる文を読むことで、子音の復習と母音への気付きを高める。

- ★ 本単元での絵本頁は、夏休のKazuの思い出を紹介している。Kazuは、家族と海に行き、ビーチでご飯を食べるなど、楽しいひと時を過ごしている場面である。海の生き物に興味なるKazuは、ご飯もそこそこに、早速、浜辺の生き物探しに夢中である。児童には、自分たちの楽しかった夏休みの思い出と重ねて、このKazuの夏休みの一日を読んでほしい。
- ★ また、ここでは、-ishのライム（押韻）を扱っている。star fishやjelly fishの音声には、3年生Unit 8 What's this?の単元で出合っているが、ここではその文字に出合う。3年生から聞いた言ったりしていたfishという文字を読むのは、児童にはそう抵抗がないものと思われる。ぜひ、-ishという韻を踏んでいる文のリズムやイントネーションを楽しめるよう指導者もともにリズムカルに声を出して読みたいものである。英文をテンポよく言うことで、-ishの音が続く楽しさを味わいながら、単元を通じたSounds and Lettersで取り扱ってきた子音の復習や母音への気付きを高めたい。
- ★ 指導案では、単元終末の第8時のみでこの絵本頁を扱っているが、児童の実態に合わせて、第1時からこの頁で児童に読み聞かせることも考えられる。また、第8時に、Unit 1のSTORY TIMEから読んでいくことも考えられる。
- ★ まず視聴覚教材で、お話を2、3回聞く。その後、音声に続いて言う。ライムしている単語だけを言うなどするとよい。

ここではLet's Read and Watchの際に使う主な英語を解説しています。

QR